病理学各論Ⅲ

科目責任者　石　田　和　之
学年・学期　３学年・３学期

Ⅰ．前　　文

各臓器の様々な疾患の病態を主に形態学的観点から系統的に学習し，疾患の発症・進展に関わる分子病理学を併せて学習する。病理学各論は臨床医学のあらゆる分野の基本となる必須科目であり確実に習得しなくてはならない。そのため規定の出席日数を満たし筆記試験に合格した場合にのみ単位を授与する。試験問題は講義で学んだ内容を中心に作成する。

Ⅱ．担当教員

病理診断学

石　田　和　之
中　里　宜　正
金　子　有　子
大和田　温　子
大日方　謙　介
清　水　和　彦
平　林　かおる
佐　藤　泰　樹
松　嶋　　惇
藤　井　晶　子

病理学

矢　澤　卓　也

Ⅲ．一般学習目標

疾患の肉眼形態学，組織形態学的変化を学習する。その形態学的変化を引き起こす生理学的，生化学的，遺伝子学的変化を併せて学習するとともに，個々の臓器疾患が全身に及ぼす影響についても総合的に理解する。

Ⅳ．学修の到達目標

レベル：解剖学，生化学，生理学，感染症及び病理学総論の基礎的知識が要求される。

目標達成のためのキーワード：病因，病態と機序，肉眼及び組織形態像，合併ないし転帰。

1）臓器ごとの疾患の病因を説明できる。
2）各疾患の病態（成り立ち）について形態学を中心に学び，なかには遺伝子・分子レベルでの病態として理解すべきものを含め，その病変を説明できる。
3）病変の肉眼及び組織形態学的変化は，教員の提示する資料や参考書を見て，病変の形態のイメージをみずから頭に描き説明することができる。
4）それぞれの疾患の病変が及ぼす個体への影響を説明できる。

三学年

Ⅴ．授業計画及び方法

科目名	コマ数
血液・造血器	4
産科婦人科学	4
腎・泌尿器	5
運動器	3
計	16

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

講義の理解度を確認するために，必要に応じ小テストやレポート提出を行う。成績は，期末試験（100％），授業を1/3以上欠席した場合は，受験できない。小テスト，レポートなどで総合的に判断する。

Ⅶ．教科書・参考図書・ＡＶ資料

１）英文教科書は、病変の英語的表現に慣れるために，部分的でも良いから，どれか一冊を読むことをすすめる。

Robbins Basic Pathology. Kumar v, Cotran RS, Robbins SL,（指定図書あり）

同上和訳本（指定図書あり）

Andersons Pathology. Damjanov and Linder (or Kissane)

２）和文教科書は特定しないが，なるべく最新改訂版ないし最新著書が望ましい。

青笹　克之　編　解明病理学　医歯薬出版2013

坂本　穆彦他編　標準病理学　医学書院

長村，澤井他編　NEWエッセンシャル病理学　医歯薬出版

ルービンカラー基本病理学（河原他訳）西村書店

３）病理形態マクロ・組織の参考書

下　正宗　編　正常画像と比べてわかる病理アトラス

ロビンス＆コトラン　病理学アトラス　Elsevier（和訳）

アンダーソン病理学アトラス　ＭＥＤＳｉ（和訳）

組織病理アトラス　文光堂

マクロ病理アトラス　文光堂

図説マクロ病理学　医学書院

その他　細胞関係の基礎的参考書

Ⅷ．質問への対応方法

基本的に，講義中ないし講義後すみやかに質問してほしい。

その後，質問が生じた場合，担当教員の教室を個別に訪問すれば特別な用がない限り対応できる。

Ⅸ．卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	○
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	○
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	○

Ⅹ．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

希望があれば，期末試験の結果を講評・解説する。

Ⅺ．求められる事前学習，事後学習

事前学修：

正常の組織像等に関する資料を前もって配布するので必ず取り組むこと。講義当日の最初にこの内容に関するテストを行い，結果は総合成績に反映させる。必要な所用時間はシラバス別冊に記載。

事後学修：

教科書，配布資料を参考にして実習で学んだ疾患の臨床病理所見を整理する。必要な所用時間はシラバス別冊に記載。

Ⅻ．コアカリ記号・番号

D−1−1)，D−1−4) − (1)，D−1−4) − (2)，D−1−4) − (4)，D−2−4) − (6)，D−4−1)，D−4−1) − (1)，D−4−4) − (1)，D−4−4) − (3)，D−8−4) − (2)，D−8−4) − (3)，D−8−4) − (8)，D−8−4) − (9)，D−9−4) − (3)，D−12−4) − (7)，E−4−3) − (2)，E−4−3) − (4)